




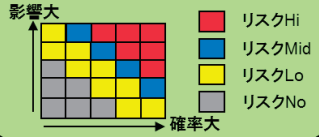
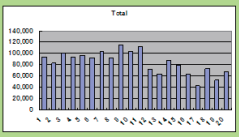

アセットマネジメント部門

仙台市下水道事業におけるアセットマネジメントの取組み

仙台市

- 平成18年 アセットマネジメント(以下、AM)導入検討ワーキンググループ設置
- 平成20年 資産管理戦略室の設置、AM導入戦略の策定

AM導入戦略の主な取組み

| | | |
|--|---|---|
| <p>ビジョンの策定 下水道事業のビジョン(目標)と指標について設定</p>  | <p>業務プロセスの整備 AMで変更した業務手順や基準等を文書・システム化</p>  | <p>新たな技術の導入 機器を停止せずに故障の前兆を検出する保全手法を採用</p>  <p>現場での振動測定</p> |
| <p>リスク評価と投資判断 発生確率と影響を評価し、施策の優先度を判定し予算化</p>  | <p>最適な保全計画の策定 シミュレーションを用いて長期的なコストを予測</p>  | <p>内部監査の実施 共同研究によりISO55001に基づく内部監査の仕組みを構築</p>  |

- 平成25年7月 市長によるAM運用開始宣言
- 平成26年3月 管路部門において日本初のISO55001(*)認証を取得

※平成26年1月に発行されたアセットマネジメントシステムの国際規格

これまでの主な成果

- 業務プロセスの改善により、市民要望等への対応時間を短縮
- 管きよは標準耐用年数の約1.5倍、設備は約1.5~2倍の使用が可能であると明らかに
- 蓄積された維持管理情報を分析し、道路陥没や詰まり削減の取組みに活用
- リスク評価と投資判断基準に基づく事業の優先順位を反映した予算編成の実施
- ポンプ施設や処理施設の長寿命化により、約34億円のライフサイクルコスト削減を実現

PRポイント!

仙台市の下水道事業では、施設の増加や老朽化に伴う維持管理と更新の増大、一方での使用料収入や職員などの経営資源の減少といった課題に対応するため、平成18年度よりワーキンググループによりアセットマネジメント(以下、AM)導入の取組みを開始しました。さらに平成20年度には資産管理戦略室(現経営戦略室)を設置してAM導入に向けた体制を確立するとともに、東日本大震災を挟んだ5年間にわたりAM導入戦略に基づく取組みを着実に推進してきました。その結果、平成25年7月に市長がAM運用開始を宣言するに至り、平成26年3月には管路部門が日本初のISO55001の認証を取得しました。

Key Person



経営企画課
水谷 哲也

仙台市下水道事業では、海外事例を参考にするなどAMに関する情報の収集を行うとともに、組織内で新たな取組みへの合意を獲得するため、延べ600回以上のWGやヒアリング、打合せ等を地道に積み重ね、AMの仕組みの構築や運用を進めてきました。

その結果、東日本大震災の際には、それまでに整備していたシステムを活用し、被災調査作業を円滑に行うこともできました。引き続き、内部監査やISO55001を活用して、本市AMの改善に努めるとともに、AMの普及拡大にも貢献してまいります。